

## 平成26年度第1回千葉市病院運営委員会議事録

1 日 時 平成27年1月23日（金）午後7時から午後8時45分まで

2 場 所 千葉中央コミュニティセンター 8階 千鳥・海鷗

3 出席者

(1) 委 員 入江康文委員、齋藤博明委員、齋藤文平委員、金子充人委員、  
金親肇委員、小林繁樹委員、木田達蔵委員、吉田由枝委員

(2) 事務局 齋藤病院事業管理者

[病院局 経営管理部]

島田経営管理部長、神崎経営企画課長、古川管理課長、岩田総括主幹、  
谷管理課長補佐、須田担当課長補佐

[病院局 市立青葉病院]

田中院長、寺野副院長、岩崎副院長、安見薬剤部長、久保悦子看護部長、  
御園事務長、柴崎医事室長

[病院局 市立海浜病院]

太枝院長、宇津木副院長、北副院長、志村薬剤部長、久保ひろみ看護部長、  
加藤事務長、大塚医事室長

[保健福祉局健康部]

加瀬健康部長、三上健康企画課長

(3) 傍聴者 1人

4 議 事

(1) 「新千葉市立病院改革プラン」（平成24～26年度）の進捗について

(2) 「千葉市立病院改革プラン（第3期：平成27～29年度）」について

5 議事の概要

議事（1）「新千葉市立病院改革プラン」（平成24～26年度）の進捗について

島田経営管理部長、田中青葉病院長及び太枝海浜病院長から、新千葉市立病院改革プランの進捗について説明。

### 【質疑応答】

<小林委員>

平成26年度の診療報酬改定の影響は、どうであったか。

また、人材育成の強化において、看護師確保に苦勞されていると思うが、認定看護師を増やすことが1つの方法と考える。個人の資格である認定の資格を取るための研修費用に公費を使うことに対して、どのように考えているか。

<島田経営管理部長>

診療報酬改定には、大きく影響を受けたと考えている。加えて消費税率引き上げも影響

している。診療材料購入等の経費には消費税がかかるが、診療の請求には、かけることができない。

次に、認定看護師の育成については、認定取得費用については千葉市が全額負担しており、引き続き様々な分野の認定看護師の育成を考えている。

<小林委員>

職員のモチベーションを高められることから、認定取得のための費用負担は、投資という意味で必要と考えている。

議事（２）「千葉市立病院改革プラン（第３期：平成２７～２９年度）」について  
事務局から、千葉市立病院改革プラン（第３期：平成２７～２９年度）について説明。

#### 【質疑応答】

<入江委員長>

現在のところ青葉病院の病床利用率が低い状態であるが、次期プランでは平成２７年度から急に改善している。具体的にはどのような方策を考えているか。

<島田経営管理部長>

今年度の看護師採用活動が順調に進み、約９０人ほどの内定者がいる。看護師の増員により、青葉病院の一部病床集約の全面解除することで、病床利用率が改善すると考えている。

<入江委員長>

臨床現場にいと、高齢者ほど平均在院日数は長くなる傾向にあると感じている。

次期プランでは、高齢者の増加に伴い患者数が増加するとしており、同時に平均在院日数が短縮するとしているが、この根拠はどのようなものか。

<島田経営管理部長>

現在のところまで病診連携が不足していたと感じている。今後、連携を進め、入院患者の逆紹介することで在院日数を短縮することを想定している。

<入江委員長>

肺炎や心不全等により老人ホーム等の施設から救急車で搬送されてくる高齢者が多いと感じている。次期プランでは救急車の受入増加を計画しているが、このような患者を受け入れると平均在院日数は計画のようには進まないと考える。

また、厚生労働省は、急性期病院にも長期入院が可能な一定枠の病床を想定するとしている。

<島田経営管理部長>

委員長が言われたように平均在院日数を短縮することを目指しても、現実には長引くケースがある。そのため、病診連携をより強固なものにするため、地域の医療機関の先生方のご協力いただけるようお願いしてまいりたいと思う。

また、現在のところ、両市立病院に長期入院が可能な病棟を早急に設置することは考えていない。

<入江委員長>

小林委員が病院長を務められている千葉県救急医療センターでは、受け入れた患者を地域の医療機関に紹介することができなくて苦労したと聞いている。

<小林委員>

経営指標の改善に沿わない患者が公的病院に集まってしまう現在の状況で、公立の急性期病院にとって、プランで示されているような経営指標を改善させるのは難しいと考える。ただ、太枝海浜病院長が医業収支比率90%を目標にすると説明されたことで、医療現場の考えも同じ方向を向いていることが理解できた。

しかし、分かりやすい目標として自分も新規入院患者数をあげるが、プランで掲げている目標は、かなり高く、今後の高齢の患者が増加する状況で病棟管理などを含めて可能なのか疑問を感じる。

また、病床利用率が80%を超えると重症度がわからない救急患者を受けづらくなり、救急車の受入れを抑制した運営になる可能性がある。その結果、市民のニーズに沿わない方向に進むことを危惧する。

あと、海浜病院は老朽化による建て替えが考えられるが、毎日勤務する職員のモチベーションに影響するため、どうせ建て替えるからとの理由で修繕を怠らないでほしい。

<木田委員>

薬剤費について、平成26年度の後発医薬品（ジェネリック医薬品）の数量に対する割合と金額の割合を教えてください。

<志村海浜病院薬剤部長>

後発医薬品への切り替えは随時行っている。DPC評価係数対象である後発医薬品指数は、後発医薬品の数量割合60%で上限となるが、平成26年度海浜病院の数量割合は、70%を超えている。金額における後発医薬品の割合は、平成25年度までに高額な薬品を中心に切り替えているため、今年度は数量ほどの割合にはなっていない。

<金親委員>

年末年始の海浜病院夜急診を担当したが、調剤室が狭く、薬剤師の十分な作業スペースが確保されていないと感じた。薬剤師に大きな医療事故は無かったが、環境が悪いと医療事故につながる可能性が高くなるため、夜急診の調剤室の環境整備を望む。

<太枝海浜病院長>

今回の年末年始は、想定外の患者数であったが、休日診と夜急診に期待する市民が増えていると感じている。ゴールデンウィークや次の年末年始に備えて体制を整える必要があると考えている。夜急診は20年前に始まったが、時代のニーズが変わっている中で、海浜病院内の同じ場所で同じことをしている。将来に向けて変革を含めて検討する必要があると考えている。調剤室についても、十分に検討したい。

<入江委員長>

調剤室の環境整備について、早急な対応を望む。

青葉看護専門学校は、過去には千葉市が所管していたが、現在は千葉市の負担を減らすために保健医療事業団が所管している。この様な経緯も考慮して、青葉看護専門学校と両市立病院は三位一体で考えてほしい。

また、青葉看護専門学校を卒業して、病院で勤務を開始してもすぐに1人前の看護師というわけではない。配属後2～3年ほどかけて優秀な看護師に育て上げる卒後研修カリキュラムを充実させてほしい。

以上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744